

手がけていた在東京の NGO は強く反発した。自分たちの通行章発行が拒否されたわけではない。話は「あれよあれよ」と国会に波及し、とうとう秋葉忠利衆議院議員（現広島市長）が大蔵委員会で問いただすまでになった。答弁は「ミスター円」こと榊原英資大蔵省国際金融局局長（現慶応大学教員）。榊原局長は「福岡総会では多くの NGO に通行章を発行する」と明言。実際その通りになった。

時は流れ、私は ADB への働きかけを仕事とする NGO スタッフになった。そして谷垣大臣声明直後の6月に東京で ADB の情報公開政策の改善を話し合う公聴会に出席していた。この席で NGO は様々な改善点を提出したが、その一つに、「理事会の逐語録を公開すべき」という件があった。ADB は理事会でどの国にどういった経済援助（融資）を行なうかを最終決定する。逐語録とは、各国の政府代表の発言がそのまま記載されている文書で、現在は公表されていない。

NGO の提案に対して、担当の ADB 広報室長は、「あんな細かい記録、本当に読みたいんですか」と、怪訝あらわな表情で応えた。

確かに役に立つ部分も、立たない部分もあるだろう。しかし、ADB が公的資金で運営されて、「貧困削減」という公共の利益を目標としている以上、理事たちには責任を持って発言してほしいし、責任を明確にするためにも発言を公表してほしい、というのが NGO の言い分である。理事会の逐語録に限らず、私たちが何を読みたいかを ADB に勝手に決めてもらうのも困る。そもそも公開してもらわないと、どういう情報が存在するのかも私たちは分からない。



96年マニラ総会に集まった NGO メンバー

たとえば私たちが使えないからといって、その情報を公開しなくてもいい、ということにもならない。アジア太平洋各地で ADB の情報公開の改善を求める声は強い。多くの場合、ADB の判断一つで人生が変わるような事態に直面している人々が発する声だ。情報公開を考える時、自分が情報を使うかではなく、使いたい人が使いたい時に使えるよう情報を公開しておくことを原則に考えたい。広報室長の表情と口調に接して、そんなことを考えた。同時に、総会通行章をもらえなかったかつての私も、「とりあえず支障がないからいいかあ」と納得するのではなく、閉鎖的な総会のあり方自体に疑問を抱くべきだった。

「情報を請求して、ADB がその請求を却下した時に、その却下の判断が妥当かどうかを審査する仕組みを作った方がいい」。これも NGO 提案の一つだ。情報を握っている側が出したがるのは、ある意味で仕方がない。だからこそ、それが適切かどうかを見直す余地を残すことで政策が健全に運用される可能性がぐんと高まる³。

³ 日本の情報公開法にも不服を申し立てる制度がある。

ADB 広報室はこの点について、「細かいところまでルールを定めてスタッフに徹底するから大丈夫」と考えている。私はまた96年当時の記憶に戻った。その頃私は大震災の傷跡がまだまだ生々しい神戸市に通い続けて、神戸市当局によって情け容赦なく遠隔地の仮設住宅に放り込まれていく被災者たちの悲鳴を耳にしていた。ADB が備えている多くの政策の中に、住民移転に関する政策があるのを目にした私は、せんないことは重々承知の上で「神戸市にせめてこういう政策があったら」とため息をついた。

しかし ADB の問題が政策の表現内容より、むしろその実施状況にあることを痛感するまで、さほど時間はかからなかった。ADB が融資したプロジェクトで被害にあった人々と話すと、はじめは、「この政策にこう書いてあるんだから、ADB はきっと自分たちの言い分を聞いてくれる」とか、「ADB に働きかけて、私たちの政府が ADB の政策を見習うようにしてもらおう」と考えている場合が多い。しかし、それはたいてい落胆に変わる。大規模ダム建設や国道敷設・改修にともなう住民移転は特に問題山積である。

情報公開については、こんなことがあった。ADB のサイト上で公開されているはずの文書が見当たらない。担当者にメールを送ると、「アップされているはず」と回答が来る。「いや見当たらない」と私は再度メールを送る。しばらくして、「ごめん。来週にはアップされる」と返事が来る。結局アップされたのはさらに先だ。この場合は担当者が最初のメールに文書を添付してくれたので、良心的な対応だとは感じた。しかし私一人が受け取れば済む問題でもない。私は担当スタッフを知っていたので、すぐに請求のメールを発信できた。しかし、初めて ADB と連絡をとる人だったら。英語が苦手だったら。インターネットへのアクセスが容易でなかったら。「ADB に連絡してもきちんと対応してくれなかった」との不満は少なくない。

たとえ内容十分の政策ができあがっても、きちんとした運用をうながす仕組みがなければ、せっかくの政策の内容が運用に直結しない。これまでの ADB の政策の問題点そのままである。ADB に情報請求を却下された人が異議を申立て、却下の可否を政策に照し合せてあらためて吟味する手続きがあれば、政策の内容と運用の乖離を防ぐことができる。

東京をはじめ全世界 18 ヶ所で開催された公聴会で出た意見はここに書き尽くせない。東京公聴会で私が感じ取ったのは、ADB と NGO が情報公開のとらえ方のかなり根本的なところで立場を異にする点だ。たとえば、異議申し立て手続きは NGO にとって情報公開のかなり根幹に関わることで是非とも新政策に盛り込みたい、とかなり以前から ADB に検討を迫ってきた。しかし広報室の説明では、この点について ADB が内部で真剣に議論した確証は得られなかった。ADB の情報公開をめぐる議論は05年までずれ込むことになった。機会をあらためて追加報告ができればと思う。

いきなり「ADB 情報公開政策改訂」と切り出すととっつきにくくなると感じて、このような報告を書きました。特に私自身の ADB に対する見方の変化を、ADB に関わりはじめた当初と対比して盛り込んでみました。一人でも多くの方々から、ADB の情報公開政策の改善に対する理解を得るきっかけになればさいわいです。改善の過程に関わり、意見や提言を提出するとなると、ADB の情報公開政策に通じていなければなりません。NGO 間でのやり取りも英語で行われることが多いため、いきなりたくさんの方々の積極的な参加を期待するのは現実的ではないでしょう。しかし、たとえ少しでも分かっていたら努力や工夫をすることも大切だと考えました。

FNA の活動期間もあと数年で十年になろうとしています。発展途上国に学校を建てたり井戸を掘るお手伝いをする、といった具体的な活動を目的とするわけではない FNA がこれまで活動を継続できたのは、少し違った国際協力のあり方を感じとっている方々がつねにいて下さったからだ、と受けとめています。今後はその「あり方」ももう少しはっきりと見えるように伝えられれば、と思います。

なお、ADB は公聴会での議論をふまえて、現在新しい情報公開政策 (Public Communications Policy=PCP) の第二ドラフトを作成中です。第二ドラフト発表後は、再び ADB のサイトを通すなどして誰でも意見を述べることができます。PCP の検討作業と NGO の取組みに関しては、米国の NGO、Bank Information Center のサイト (英語) が最も詳しいと思います。

<http://www.adb.org/Disclosure/default.asp>

ADB が PCP 作成のために開設したサイト (英語) は、次の通りです。

http://www.bicusa.org/bicusa/issues/misc_resources/1436.php

日本語では、環境持続社会研究センター (JACSES) が次のサイトを開設していますが、文書はほとんど英文です。<http://www.jacsces.org/sdap/disclosure/adb/index.html>

今後 NGO がこの件で共同意見書を作成し、広く署名を集めて ADB に提出する可能性もあります。そうした際にはお声をかけさせていただくかも知れませんが、あらかじめ、ご協力のほどよろしくお願い致します。ご不明な点は、土井 (toshi-doi@mtd.biglobe.e.jp) までお問合せ下さい。

(編集者より：東京での情報公開政策に関する協議会の要約は、次のサイトからダウンロードできます。英文で7ページです。<http://adb.org/Disclosure/Documents/tokyo-wkshp-summary.pdf>)

情報ファイル

アジア開発銀行総裁に黒田・内閣官房参与

アジア開発銀行 (ADB、本部・マニラ) の千野忠男総裁 (70) が近く勇退を表明し、後任に元財務省財務官の黒田東彦・内閣官房参与 (59) が就任する見通しとなった。

千野総裁は1999年に就任し、2006年まで総裁任期を残しているが、アジア開発基金 (ADF) の増資交渉が5月に決着したことを受け、勇退の方針を固めた。ADBはこれを受け、今秋に加盟国による後任の総裁選を行うが、日本政府は後任に黒田氏を推薦する。ADBの歴代総裁は最大の拠出国である日本の推薦者が選ばれるのが慣例で、今のところ黒田氏の当選は確実。黒田氏は来年1月にも新総裁に就任する見通しだ。

●黒田 東彦氏 (くろだ・はるひこ) 67年東大法卒、旧大蔵省 (現財務省) 入省。国際局長、財務官などを経て2003年3月から内閣官房参与。福岡県出身。

黒田氏は2000年5月、福岡市で開催された「NGO・大蔵省 (当時) 協議会」 (主催：アジア開発銀行福岡 NGO フォーラム) に財務官として出席。ご記憶の方も多いと思います。



福岡 NGO・大蔵省協議会
での黒田氏

なお、ADBの歴代総裁とは、第1代・渡辺 武 (1966.11~72.11)、第2代・井上四郎 (1972.11~76.11)、第3代・吉田太郎一 (1976.11~81.11)、第4代・藤岡眞佐夫 (1981.11~89.11)、第5代・垂水公正 (1989.11~93.11)、第6代・佐藤光夫 (1993.11~99.1、福岡総会時)、現在の第7代・千野忠男 (1999.1~) 各氏。

韓国環境調査②：セマングン埋め立て事業とその行方

諫早干拓工事に「待った」の司法判断が下った。今春訪れた韓国の全羅（チョンラ）北道には、豊かな干潟を埋めるセマングン干拓事業が展開されている。現地を案内してくれた韓国人は、以前故山下弘文氏が数回訪れたことを教えてくれた。韓国の“諫早干拓事業”について紹介したい。

土肥勲嗣（どい・くんじ=FNA 運営委員、九州大学大学院生）

1. 事業の概要と問題

セマングン埋め立て事業は、全羅（チョンラ）北道の郡山市、金提市、扶安市の広域にわたる干潟を埋め立てる国営事業である。事業の目的は、領土拡大、産業用地、農地調整、利水と4つ指摘されているが、超大型の農地を造成するものである。28,300haの農地と11,800haの淡水湖をつつために、33kmにわたる防潮堤を建設する大規模な公共事業である。1987年当時の大統領の公約として計画が発表され、1991年に工事が着工開始された。

しかし、工事が開始され時間が経過しているうちに、事業の問題が明らかになってきた。事業に反対する団体は、①水質汚染、②環境機能不全、③予算の拡大、④干潟の損失、の4つの問題を指摘している。計画当時不足して米は余るようになり、当初の目的は妥当性を失っていった。盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領ですら、2003年6月、「農地中心の開発用途について、もう一度検討する必要がある」という立場を示した。同時に、全国のタイラギの8割を育む豊かな干潟の価値に人々が気付きはじめたのである。

2. 執行中止命令

このような状況の中、ソウル行政裁判所は、2003年7月、「ここに来て回復が困難なほどの損害が発生し得る」として執行停止の決定を下した。これにより、延長33キロメートルのうち30.3キロメートルに対する防潮工事が完了し、91.8%の進捗状況をみせている防潮工事がこの日から全面中断されることになった。判決において「農地造成と水資源開発を目的にセマングン事業が推進されたが、新たに造成される淡水湖が深刻に汚染され、最初計画していた水準の農業用水に維持される可能性が少なく、事業目的を果たしにくい」、特に「国内唯一の河口干潟であるセマングン流域は生態的価値が大きく、干潟を保全する場合、毎年国民が得られる便益も莫大な金額にのぼる」とし、環境保全の重要性を強調したのである。



3. 今後の見通し

しかし、工事の中断は長くは続かなかった。2004年1月、ソウル高等裁判所は、ソウル行政裁判所の仮処分決定を覆す判決を下した。この訴訟とは別に、セマングン地域住民3,539人は、2001年8月「セマングン事業を承認した政府の処分を取消してほしい」として、取消し請求訴訟を展開している。司法が人間の愚行を止められないとき、ほかに誰が止めることができるのだろうか。

※参考ウェブサイト：希望の干潟セマングン <http://sos.kfem.or.kr/>

イベントのお知らせ

秋のイベント情報満載！
どうぞお出かけください

セミナー 9月23日(木・祝) 13:00~15:00

NGO入門セミナー：やってみたい?! 海外暮らし&ボランティア
・3名の講師の方による体験談を聞いてみませんか。

会場：あすみん 参加費：500円(飲み物つき) 問合せ：FNA 092-920-1873

イベント 9月26日(日)

16:00~20:00

川辺川を食べよう!~川辺川

そば鮎と球磨焼酎

場所：箱崎公会堂カフェ

問合せ先：川辺川を守る福岡の

会 TEL092-633-6862

イベント ブース出展

10月24日(日) 10時~16時30分

まつりアミカス2004

会場：アミカス2Fロビー

問合せ先：まつりアミカス実行委員会

事務局 TEL092-526-3755

・アジアングッズ販売・活動報告展示

イベント ブース出展

10月23日(土)・24日(日)

11時~18時

地球市民とんたく2004

会場：天神ソリアプラザ1F

問合せ先：地球市民とんたく実行委員会

事務局 TEL092-733-5630

・アジアングッズ販売・活動報告展示

セミナー 10月30日(土) 13:00~17:30

地球市民とんたく2004

国際協力セミナー

会場：あいらふ9F大研修室

参加費：無料

問合せ先：地球市民とんたく実行委員会

事務局 TEL092-733-5630

パネリスト：熊岡路矢氏(JVC代表)、

神谷祐介氏(NAPジャパン)他

イベント ブース出展

11月6日(土)・7日(日) 11時~18時

ハートフルフェスタ福岡2004

会場：博多リパイン5F

問合せ先：ハートフルフェスタ福岡実行委

員会事務局 TEL092-262-8465

・アジアングッズ販売・活動報告展示

イベント ブース出展

11月27日(土)・28日(日)

10時~16時

あすはるフェスタ2004

会場：クローバープラザ502研修室

問合せ先：あすはるフェスタ実行委員会

事務局 TEL092-584-1261

・アジアングッズ販売・活動報告展示

2004年6月

《賛同》 世界銀行・採掘産業再検討回答の翻訳文書に関する要請レター
(とりまとめ: FoE-Japan)

<http://www.worldbank.org/ogmc/>

<http://www.eireview.org>

7月

2日 松本悟さん(メコン・ウォッチ)を囲む学習会(ココロンセンター)

7日 オープンアカウント 15号発送

22日 FNA 運営委員会(あすみん)

《賛同》 世界銀行に対し、情報の公開とコンサルテーションの日程の延期を求めるレターへの賛同(ラオスのナムトゥン2ダム)(とりまとめ: Environmental Defense)

<http://www.mekongwatch.org/issues/namthuen2.html#SEC1>

8月

21日・22日 第8回 清流・川辺川現地調査(熊本)

《賛同》

- ・第8回 川辺川現地調査資料集について(川辺川現地調査実行委員会)

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Cosmos/6168/gencho2004.html>

- ・スリランカ南部ハイウェイ事業に関する国際協力銀行の調査に関する要望書(とりまとめ: FoE-Japan) <http://www.foejapan.org/aid/jbic02/srilanka/index.html>

情報ファイル

川辺川からニュースです!

現在、ダム工事だけで2650億円(計画発表当初は350億円)とされている事業費が、少なく見積もっても更に650億円がかかり、合計で3300億円になる見通しということが、8月6日国土交通省の内部文書によって発覚しました。

その上、このことを公表するとダム反対派の反発を受けるので、自分たちにとって最も都合の良い時期に公表のタイミングを持ってこようとしていたことが明らかになっています。

事業費増は熊本県負担増にもつながり、ダムにやや慎重姿勢を見せている県にも戸惑いが広がっているよう。ダム反対派は「県民をバカにしている」と激怒しています。今後、川辺川ダム関係で大きな展開を迎える可能性がありますので、引き続き応援、よろしくお願ひします!!

寺嶋(FNA運営委員、川辺川を守る福岡の会)

ニュースちょっと読み

ADB に関するものを中心に情報を集めました。詳細についてはそれぞれの連絡先まで。

「アジア開発銀行が対テロ基金 日米豪が供出」 (MDBs Update 04/07/13)

シベリア産石油輸出計画 パイプラインの建設費 当初の2倍 (MDBs Update 04/07/20)

サハリン天然ガス開発現場を視察 エネルギー協力 (MDBs Update 04/08/18)

アジア開発銀行総裁に黒田・内閣官房参与 (MDBs Update 04/08/23)

<外務省概算要求> ODAは15.3%増の5766億円 (MDBs Update 04/08/30)

サハリン資源開発が本格化 北東アジアに新拠点誕生 (MDBs Update 04/09/13)

台風18号 サハリンで大型作業船座礁 重油100トン流出 (MDBs Update 04/09/13)

インド・オムカレシュワールダム (ナルマダ川) 現地調査レポートのご案内 (6/30 ODA-ML)

○現地調査レポート：<http://www.jacses.org/sdap/omkare/Omkareshwar-Briefing.pdf>

○プロジェクト関連情報：<http://www.jacses.org/sdap/omkare/index.htm>

メラムチ給水プロジェクトの現地調査レポート (8/17 ODA-ML)

http://www.jacses.org/sdap/melamchi/interview_records_jp.pdf

ー 以上、「環境・持続社会」研究センター (JACSES) E-mail: jacses@jacses.org
URL: <http://www.jacses.org>

ナムトゥン2ダム・キャンペーン1 > 世界銀行とADBの支援を止めよう! (9/1 メコン・ウォッチML)

ナムトゥン2ダム・キャンペーン2 > 世界銀行があす東京でワークショップ開催 (9/2 メコン・ウォッチML)

ナムトゥン2ダム・キャンペーン3 > バンコクでの世界銀行ワークショップはダム批判で埋まった (9/2 メコン・ウォッチML)

ナムトゥン2ダム・キャンペーン4 > 東京ワークショップでも疑問と批判が相次ぐ (9/6 メコン・ウォッチML)

ナムトゥン2ダム・キャンペーン5 > 世界銀行に抗議・質問状を提出 (9/9 メコン・ウォッチML)

<キャンペーンのサイト> <http://www.mekongwatch.org/issues/namthuen2.html#SEC1>

ー 以上、メコン・ウォッチ ホームページ (<http://www.mekongwatch.org/>)

スリランカ南部高速道路事業： 現地 NGO からのプレスリリース（7/15 ODA-ML）

フィリピン・サンロケダム： 地元住民が補償問題に関して意見表明（4月23日）

（8/4 ODA-ML）<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/letter/20040423.html>

<http://www.FoEJapan.org/aid/jbic02/sr/index.html>

サハリンⅡ開発・ホルムスク沖で油流出（その1）（9/10 ODA-ML）

サハリンⅡ開発・ホルムスク沖で油流出（その2）（9/10 ODA-ML）

【サハリンⅡ開発】油流出続報：サハリンインディペンデント紙記事（9/15 ODA-ML）

http://sakhalinindependent.com/IMAGES/oilandgas/seic_oil_spill_kholmsk.htm

—以上 FoE Japan（<http://www.FoEJapan.org>）

本のご紹介

『 脱グローバル化 新しい世界経済体制の構築へ向けて 』

ウォールデン・ペロー=著 戸田 清=訳

明石書店 2004年4月 2200円

ウォールデン・ペロー氏はタイのNGO「フォーカス・オン・ザ・グローバル・サウス」の常務理事。

「グローバル化」という言葉が一般市民に「なんとなく良さそうなもの」と好意的にとらえられることさえある現実に対し、著者は「WTOは自由貿易のための機構と思われるが、WTOの最も重要な諸協定は、米国企業の独占を後押ししている」と述べている。

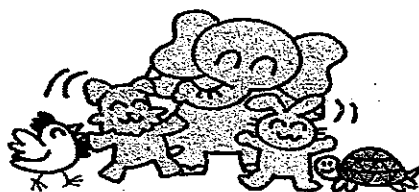
「脱構築」、それと同時に「再構築」を。国際市民社会の努力目標として挙げられた「より大きな空間、柔軟性、譲歩」とは、経済に関してのみ取り上げられることではないのは明らかであろう。

・・・本書の帯写真となっている少女の静謐な眼差しが印象的である。

解説は吾郷健二・FNA代表。



お手伝いしてください



本誌6ページでご案内しました通り、今年も秋のイベントもりだくさん!

FNAの出展ブースを手伝っていただけませんか? あなたの「手」を貸してください。

10月23日(土)・24日(日) 地球市民どんたく(会場・天神ソラリアプラザ)

10月24日(日) まつりアミカス(会場・福岡市女性センターアミカス(西鉄高宮駅横))

10月30日(土) 地球市民どんたく 国際協力セミナー(会場・あいれふ)

11月6日(土)・7日(日) ハートフルフェスタ(会場・博多リパレイン)

11月27日(土)・28日(日) あすばるフェスタ(会場・クローバープラザ(JR春日駅横))

お手伝いして下さる方、下記事務局へご連絡ください。お待ちしております!

お申し込み・お問い合わせ・ご連絡は下記までお願いします。

〒810-0041 福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5階

福岡市NPO・ボランティア交流センター(愛称あすみん) 気付 連絡ボックスNo.24 FNA 行
(郵便物には必ず「連絡ボックスNo.24」を明記してください)

電話・ファクス: 092-920-1873 (電話は留守番電話になっています。ご用件を録音してください)

Eメール fna@minos.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www.geocities.co.jp/WallStreet/2253> (<http://fna.nngo.jp/>)

***会員募集中!** 年会費(1口)・正会員5000円・学生会員3000円・購読会員2000円*

入会を希望される方は、氏名・住所・連絡先(電話・ファクス・Eメールアドレスなど)を事務局にご連絡ください。FNAの郵便振替用紙をご利用いただく場合、手数料は無料です。

「オープン・アカウント」とは?

英語の「アカウント」には二つの意味があります。ひとつは「銀行口座」ですが、もう一つは「アカウントビリティ」の「アカウント」、「説明」です。従って「オープン・アカウント」は「開設された口座」と「オープンな説明」とのかけことばになっています。

私たちがADBという公的金融機関を相手にアカウントビリティを求めていく目的でFNAの活動を始めたことから、ニュース・レターにこの名称を使うことになりました。ADBが口座開設(お金)にだけ腐心するのではなく、説明責任を果たす機関になってほしいと思います。

オープン・アカウント第16号(発行:2004年9月18日)

編集発行責任:FNA(アジア開発銀行(ADB)福岡NGOフォーラム)運営委員会

編集:梶原圭子